

北区内の主な施設

北区平和マップ

平和の女神像 北村西望作

東京都北区
City of Kita

北区の主な施設

北区平和マップ

平和の女神像 北村西望作

東京都北区
City of Kita

北区の主な施設

北区平和マップ

平和の女神像 北村西望作

東京都北区
City of Kita

赤羽地区

①浮間橋の碑

浮間橋は、荒川放水路の開削で孤島のようにってしまった浮間地区と赤羽北地区を結ぶため、昭和3年(1928)に陸軍近衛工兵大隊によって架けられました。

現在の橋は、昭和60年に架けられたものですが、橋の北詰めに建つ「浮間橋の碑」には、こうした初代浮間橋の架設に至る経緯が漢詩で刻まれています。

②防空壕の跡

北区では、戦争中、多くの斜面に防空壕が造られました。戦後ほとんどが、埋め戻されましたが、東京北医療センター(近衛工兵連隊跡地)の南側斜面のものは、区民の皆様に見ていただけよう保存され、公園の一部になっています。

③赤羽招魂社

赤羽八幡神社境内にある招魂社は、もともと、陸軍第一師団工兵第一大隊の構内(現・星美学園)にあったものです。終戦とともに八幡神社に遷され、その後、赤羽町域の戦没者が合祀されて赤羽招魂社となりました。

⑧陸軍稲付射撃場跡

明治38年(1905)、現在の梅木小学校敷地付近一帯に、東京砲兵工廠(後の造兵廠)の射場が設けられ、火薬の爆破実験、銃砲の発射実験などが行われていました。

現在、西が丘2丁目の道沿いに残る壁は、かつて、射撃場を囲んでいた外壁の一部といわれています。

⑨陸軍兵器補給廠跡

現在、ハイパフォーマンススポーツセンターとなっている一帯には、兵器の購入や保管、修理、支給などを行う陸軍兵器補給廠が置かれていました。

建物などは、すでに取り壊されてしまっていますが、公務員宿舍西が丘住宅先広場の赤レンガは、かつて、同廠の建物に使用されていたものを用いています。

④軍用貨物引込線跡

区内各地に点在する軍事施設へ物資を輸送するため、赤羽の台地上には、旧国鉄の引込線が敷かれていました。

赤羽緑道公園は、その引込線跡を整備したもので、公園内には、当時の様子を思い起こさせる様々な工夫が施されています。

⑤「大東亜戦争犠牲者慰霊記念碑」

旧神谷公園には、さきの戦争で亡くなられた方々の慰霊記念碑があります。この場所には、昭和20年(1945)3月から8月にかけて、神谷周辺で亡くなられた三百数十名の方が仮埋葬されていました。

⑥平和の森

戦後50年を契機に、世界の恒久平和を願う区民の祈りを込めて、平成11年3月に建設したものです。シンボルとなっている柿の木は、長崎に投下された原子爆弾の爆心地から、わずか900メートルの地点で生き残った柿の木の二世です。

王子地区

⑩軍用貨物線の焼ケ橋トンネル跡

かつて、焼ケ橋交差点の地下にはトンネルがあり、板橋の東京第二陸軍造兵廠と、西が丘の陸軍兵器補給廠の間を結ぶトンネルが走っていました。そのトンネルは、戦後もしばらく残っていましたが、防犯上の問題によりふさがれました。

⑪須賀線跡

豊島地域には、点在していた民間および軍の工場を結ぶため、王子駅の北側から分岐する旧国鉄の貨物専用の引込線が敷かれ、須賀線と呼ばれていました。すでに、線路などはありませんが、王子4丁目交差点から延びる「紀州通り」は、この須賀線の跡なのです。

⑬平和祈念像

平和を願う区民のシンボルとして、平成2年9月に建立したものです。この像は、長崎市平和公園の「平和祈念像」の原型をもとに制作されました。

作者である、北区で最初の名誉区民で文化勲章受賞者の彫刻家・北村西望氏のご遺志と、ご遺族、長崎市をはじめ、関係各位のご理解、ご協力により実現したものです。

⑭平和祈念像 関連コラム

長崎の「平和祈念像」がどうして北区に？

「平和祈念像」といえば、長崎市平和公園にある高さ9.7メートルの像が有名ですが、北区の「北とびあ」前にも、高さ2.41メートルの「平和祈念像」が建立されています。

北区の像は、長崎の像と同じ原型をもとに初めて作られた「分身」なのです。

作者である彫刻家・北村西望氏(1884-1987)は、大正5年(1916)から昭和28年(1953)までの間、北区に在住し、西ヶ原のアトリエを拠点に多くの作品を制作しました。昭和26年には、長崎市からの依頼で、「平和祈念像」の原型の制作に着手しています。その後、昭和28年になって、長崎の実物大である高さ9.7メートルの像を制作するため、武蔵野市井の頭の新アトリエへと移ります。

長崎市にある「平和祈念像」の原型は、もともと北区で生まれていたといえます。

北村西望氏は、昭和62年に逝去されますが、北区にも代表作のひとつである「平和祈念像」を設置することは生前からの希望でした。その後、ご遺族や長崎市をはじめ多くの方々のご理解とご協力により、平成2年9月、「北とびあ」の完成とともに、北区版の「平和祈念像」が建立されたのです。

⑫豊島ドック跡

豊島ドックは、東京第二陸軍造兵廠王子工場(現・王子6丁目付近)から石神井川を経て隅田川へと通じていた物資輸送用の運河のことです。

現在では、埋め立てられて公園になっていますが、敷地を掘り返せば、今でもドックを形作っていた石組みが確認できるといわれています。

⑬軍用貨物線跨線橋跡

北区の豊島地域や十条地域など、この一帯に設けられた多くの軍の工場を結ぶため、小型列車が走る専用軌道が敷設されていました。

南橋下の児童遊園には、この専用軌道のために設けられたトンネルの砕石が残されています。

⑭⑮⑯東京第一陸軍造兵廠

明治38年(1905)、小石川にあった東京砲兵工廠銃包製造所が下十条(現・十条台1丁目)に用地を得て、小銃や機関銃に用いる弾薬や薬莖、火薬類の製造を始めました。その後、昭和15年(1940)に東京第一陸軍造兵廠と改称されます。

この周辺には史跡も多く、変圧所として建てられた254号棟の一部⑭や弾丸を製造していた275号棟⑮、工場を囲んでいた外壁の一部⑯などを、現在でも確認することができます。

⑰軍用貨物線の橋台

埼京線に架かる十条台橋から、池袋方向を見ると、線路の左右にコンクリートの四角い橋台を見ることができます。かつて、ここに、国鉄の線路の上を陸軍のトラックが渡るための橋がありました。今は、その橋台だけが残されています。

⑱憲兵の詰所

豊島地域から延びた軍用貨物線は、十条台の東京第一陸軍造兵廠内に入り、そこから南の東京第一陸軍造兵廠滝野川工場(現・滝野川3丁目付近)の方へと続いています。

この滝野川工場の入口付近に置かれていた憲兵の詰所が今でも残されています。

憲兵とは、軍の警察官のことで、人や物資の動きが監視されていました。

⑲平和の女神像

日本と中国の国交正常化を契機に、人類の理想である平和と幸福を願って、昭和49年(1974)5月に建立されました。

作者は、⑰平和祈念像と同様、北村西望氏です。

なお、区民有志の方々を中心とした「日中友好・世界平和祈念『平和の女神像』建立の会」をはじめ、関係各位のご協力により実現したものです。

⑳東京第一陸軍造兵廠本部事務所 関連コラム

昭和の生き証人
～中央公園文化センター～

豊かな緑に包まれた中央公園には、一棟の白い建物「中央公園文化センター」があります。この建物が見つめてきた歴史は、まさに「激動の昭和」そのものでした。

この建物は、昭和5年(1930)4月に、十条台一帯に広がっていた兵器工場である陸軍造兵廠火工廠(後の東京第一陸軍造兵廠)の本部事務所として建てられました。終戦により、旧軍用地が占領軍に接収されると、この一帯は、アメリカ軍の施設として使用されることになり、この建物も、アメリカ軍の保安司令部に始まり、技術情報センター、極東地区図局、野戦病院(キャンプ王子)など、昭和46年に日本へ用地返還されるまで、さまざまな用途で使用されました。

返還後、この建物には大規模な改修工事が施され、現在では、区民の生涯学習の場として、また、テレビドラマのロケ地としても頻繁に利用されるなど、新たな歴史を刻んでいます。

㉑㉒㉓㉔㉕区内に残る軍用地の標石

かつて、北区域には多くの軍事施設がありました。その面積を合計すると区の面積の約10%にもあたり、この割合は23区で最も高いものとなっています。

こうした施設の敷地を示す軍用地の標石は、現在でも区内各所で確認することができます。

㉖「陸軍用地」西が丘2-21先
梅木小学校正門脇

㉗「陸軍用地」王子本町3-2都営王子本町三丁目アパート南側擁壁付近

㉘「陸軍用地」滝野川12-32先

㉙「陸軍用地」滝野川13-53
滝野川三丁目公園

㉚「海軍用地」西ヶ原4-40・42付近

北区戦後周年誌を
読んでみませんか？

北区では平和祈念事業の一環として、区内に残る戦中・戦後の記憶を語り継ぎ、平和について考える機会としていただくため、10年ごとに周年誌を発行しています。

60年誌、70年誌及び80年誌は
北区公式ウェブサイトにて
お読みいただけます。

⑳下瀬坂 関連コラム

下瀬坂と「坂の上の雲」

区内に陸軍の工場があったことを知る方は多くても、海軍の工場があったことを知る方は少ないのではないのでしょうか？

海軍の火薬工場「海軍下瀬火薬製造所」が、西ヶ原(旧東京外国語大学西ヶ原キャンパス付近)にあったのです。この工場では、海軍技師の下瀬雅光が発明した「下瀬火薬」を生産していました。現在、西ヶ原に「下瀬坂」という地名が残っているのは、そのなごりなのです。

下瀬火薬は、日露戦争時、多くの海軍兵器に使用され、小説家の司馬遼太郎氏(1923-1996)は、その代表作のひとつ「坂の上の雲」(文藝春秋社)で、この火薬の威力を「すさまじい爆発力は従来の火薬の概念をはるかにこえたものであった」と述べ、「物の量からみればこの戦争は、日本にとって勝ち目がほとんどなかったが、わずかに有利な点は下瀬火薬にかかっていたといえるであろう。」と書き記しています。

北区平和マップ



平和散策 王子・十条コース(所用時間約70分)

王子駅 → 5分 → ① 平和祈念像 → 15分 → ③ 軍用貨物線跨線橋跡 → 10分 → ④ 旧254号棟 → 5分 → ⑤ 東京第一陸軍造兵廠 → 10分 → ⑥ 陸軍用地標石 → 5分 → ⑦ 東京第一陸軍造兵廠本部事務所 → 20分 → 王子駅



戦災樹木

ここに掲げる戦災樹木とは、空襲を受けた地域に現存する樹木のうち、その被災が記録され、あるいは語り継がれ、損傷の痕跡が確認できるものを指します。その中でも、公園や神社など、容易に観察できる3ヶ所を示すことにしました。いずれも、被災日時は、昭和20年(1945)4月13日夜から翌日です。

	場 所	樹 種	所 在 地
A	名主の滝公園	ケヤキ・スダジイ	岸町1-15-25
B	王子神社	イチヨウ	王子本町1-1-12
C	上田端八幡神社	イチヨウ・ケヤキ	田端4-18-1

①名主の滝公園 ケヤキ

②王子神社 イチヨウ

③上田端八幡神社 イチヨウ